

作成日:2015年07月31日

製品安全性データシート

1. 【製品及び会社情報】

カタログ番号	442822
製品名	BD MAX™ ExK™ DNA-3
構成品 ID	442822c
構成品名	Extraction Tube
会社名	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
住所	東京都港区赤坂4丁目15番1号
連絡先	0120-8555-90
	利用可能時間:9:00 - 17:00(土曜、日曜、祝日、弊社指定休日を除く)
使用上の制限	研究用試薬

2. 【危険有害性の要約】

GHS 分類

健康に対する有害性	物理化学的危険	火薬類	分類対象外
		可燃性・引火性ガス	分類対象外
		可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
		支燃性・酸化性ガス	分類対象外
		高压ガス	分類対象外
		引火性液体	分類対象外
		可燃性固体	分類対象外
		自己反応性化学品	分類対象外
		自然発火性液体	分類対象外
		自然発火性固体	分類対象外
		自己発熱性化学品	分類できない
		水反応可燃性化学品	分類対象外
		酸化性液体	分類対象外
		酸化性固体	分類対象外
		有機過氧化物	分類対象外
		金属腐食性物質	分類できない
		急性毒性(経口)	区分4
		急性毒性(経皮)	分類できない
		急性毒性(吸入:ガス)	区分外
		急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない	
	皮膚腐食性・刺激性	区分外	
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外	
	呼吸器感作性	分類できない	
	皮膚感作性	分類できない	
	生殖細胞変異原性	分類できない	
	発がん性	分類できない	
	生殖毒性	分類できない	

	特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分2

シンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
水生生物に毒性あり
長期的影響により水生生物に毒性あり

注意書き

安全対策

- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。

応急措置

- ・飲み込んだ場合、口をすすぐこと、気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合には、医師の診断、手当てを受けること。
- ・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

保管
廃棄

- ・漏出物は回収すること。
データ無し
- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 【組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテル (別名:Triton X-100)	2-4%	9002-93-1	(7)-172	-

4. 【応急処置】

吸入した場合

気分が悪いときは、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪いときは、医師の診断、手当を受けること。

予想される急性症状および

データなし

遅発性症状

最も重要な兆候及び症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別注意事項	データなし

5. 【火災時の措置】

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 【漏出時の措置】

人体に対する注意事項 保護具および緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8. 曝露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項 回収・中和	環境への放出を避けること。 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器 に入れる。
封じ込め及び浄化の方 法・機材	危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
二次災害の防止策	全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 【取扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気装置・全体換気	「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱注意事項	取扱い後に手・顔等をよく洗い、うがいをすること。 火気注意。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 環境への放出を避けること。
接触回避	データ無し
保管	
技術的対策	データ無し
混触禁止物質	データ無し
保管条件	酸化剤から離して保管する。
容器包装材料	データ無し

8. 【曝露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテルの情報を記載する。

管理濃度(作業環境評価基準)	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学 (2007年版)	未設定

ACGIH(2007年版)	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食および喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 【物理的及び化学的性質】

物理的状態、形状、色など	茶色の紛体
臭い	特徴的な臭い
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼範囲 下限・上限	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(密度)	データなし
溶解度	水に一部可溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし

10. 【安定性及び反応性】

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテルの安定性及び反応性情報を記載する。

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	データ無し
避けるべき条件	データ無し
混触危険物質	データ無し
危険有害な分解生成物	データ無し

11. 【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテルの有害性情報を記載する。

急性毒性

経口	ラットを用いた経口投与試験の LD50=4,190 mg/kg(EO 9)、11,600 mg/kg (EO 9) (CERI ハザードデータ集 2001-42 (2002))、1,700 mg/kg (EO 8-10)、>28,000 mg/kg (EO 40) (CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006)) のうち、最も小さい値 1,700 mg/kg 。(注) EO: エチレンオキシド(オキシエチレン)の付加モル数を表す。【注記】市場で流通している一般的な製品の EO 鎖長は 9～10 である (CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006)) ので、9EO の製品の LD50=4,190 mg/kg
経皮	データ無し
吸入	データ無し

皮膚腐食性・刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006) のヒト疫学事例に、「EO 鎖の平均鎖長が 1、3、5、8～10、12～13 の OPE (OPE1、OPE3、OPE5、OPE8-10、OPE12-13) によって皮膚一次刺激性を生じなかった」、「EO 鎖長が 3 以上のポリオキシエチレン鎖をもつ OPE は皮膚一次刺激性を有しない」とあることから、皮膚刺激性なしと判断。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	CERI ハザードデータ集 2001-42 (2002) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に「中等度の刺激性を示す」とあり、CERI・NITE 有害性評価書 No.105 (2006) のウサギを用いた Draize 法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE6-8、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とあり、しきい値法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3 は軽度の刺激性、OPE5、OPE8-10、OPE12-13 は中等度の刺激性を示す」とあることから、中等度の刺激性を有すると考える。(注) OPE _n :EO 数が n である化合物を示す。
呼吸器感作性	データ無し
生殖細胞変異原性	データ不足 (in vivo 変異原性データなし)
発がん性	データ無し
生殖毒性	データ不足
特定標的臓器／全身毒性(単回)	データ無し
特定標的臓器／全身毒性(反復)	データ無し
吸引性呼吸器有害性	データ無し

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン) = オクチルフェニルエーテルの環境影響情報を記載する。

水生環境急性有害性	藻類(セテナストラム)の 96 時間 EC50=0.21mg/L (CERI・NITE 有害性評価書(暫定版)、2006)
水生環境慢性有害性	生物蓄積性が低いものの (BCF<31 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない (BOD による分解度:22% (既存化学物質安全性点検データ))

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物	廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
-------	--

14.【輸送上の注意】

国際規制	国連番号 該当なし 国連分類 該当なし
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.【適用法令】

化審法	第3種監視化学物質(法第2条第6項)(政令番号:3監-42)
労働安全衛生法	該当なし
労働基準法	該当なし
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)(政令番号:1-408)
毒物及び劇物取締法	該当なし

大気汚染防止法	該当なし
水質汚濁防止法施行令 第2条有害物質	該当なし
消防法	危険物該当なし
船舶安全法	該当なし
航空法	該当なし

16. 【その他の情報】

参考文献

- ・ 厚生労働省ウェブサイト 職場のあんぜんサイト
- ・ 製品評価技術基盤機構 GHS混合物分類ツール（GHS改定2版対応版）

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

改訂履歴 新規作成 2015年07月31日